

10. 東山泉小中学校

京都府 京都市立東山泉小学校・東山泉中学校



背景

平成22年に、京都市東山区南部地域にある3小学校（一橋・月輪・今熊野）と月輪中学校を合わせた小中一貫校の新設を求める要望書が地元から教育委員会へ提出されたことを踏まえ、元一橋小学校敷地に校舎を新築し、元月輪中学校校舎も活用した小中一貫校を平成26年度に開校した。



西学舎(ファーストステージ):元一橋小敷地に建設された新校舎



東学舎(セカンドステージ):元月輪中を増築・改修

	学 年								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
学年段階の区切り	ファーストステージ					セカンドステージ			
授業方法	学級担任制								
運営方式	特別教室型								
授業時間	45分					50分			
校長	校長1人								
副校長・教頭	副校長1人・教頭1人					教頭1人			
部活動	なし					部活動			
PTA	PTA組織を一本化								

学校概要

	西学舎 (ファーストステージ: 1～5年)	東学舎 (セカンドステージ: 6～9年)
学校規模	普通:13学級(396人) 特別支援:2学級(7人)	普通:10学級(289人) 特別支援:1学級(3人)
学年段階の区切り	5-4	
開校年	平成26年(2014年)	
構造	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造	鉄筋コンクリート造
階数	地下1階、地上3階	地上3階
校地面積	13,168m ²	20,131m ²
延床面積	8,362m ²	6,701m ²
用途地域	第一種住居地域	第一種中高層住居専用地域

教育上の特色

義務教育の前期5年間を「西学舎」で学び、後期4年間を「東学舎」で学ぶ、5-4制の小中一貫教育を実施している。子供たちが確かな学力を身につけることができるよう、義務教育9年間を通した学びのスタイルやルールである「東山泉・学びのスタンダード」を定め、「シラバス～学びのみちしるべ」を各家庭に配布し、学校と家庭が学習内容を共有しながら取組を進めている。

1年生から中学校英語科教員による「英語活動」を開始し、5年生から一部教科担任制を導入、6年生からは国語、社会、算数以外の教科を中学校教員が担当することで、小中のスムーズな接続を図っている。また、定期考査も6年から実施している。

3年生からの総合的な学習の時間（「夢創」）では、キャリア教育の視点から、それぞれの単元で、9年生まで関連付けたテーマを設定し取り組んでいる。



児童生徒総会



小学校クラブ活動(6年生と下級生)



6年生定期考査



みんなのお気に入り「中庭」

学校運営(マネジメント体制)

学校長は1名で、西学舎に副校長と教頭の2名、東学舎に教頭1名を配置。

全教職員が兼務発令されている。校務分掌は小中教職員がそれぞれ担当し、月に1回程度の合同会議で情報共有を図っている。学校事務は共同実施している。



小中合同の教科会

計画・設計のポイント

- 1.教育委活動の一貫性確保への対応
- 2.既存学校施設の有効活用
- 3.地域と共にある学校施設の整備

整備内容

西学舎	東学舎
校舎新築 ・新築時に中庭、ランチルーム、地域交流室、和室など児童生徒間及び地域との交流スペースを整備	校舎増築・改修 ・メディアラボ(図書室など)、くらしラボ(家庭科室など)等、221m ² を増築 ・階段段差の改善 ・手洗い場の増設

施設上の特色



校舎の位置関係

- 西学舎のみでは全校児童生徒約700人に余裕のある活動スペースを確保することは景観上の規制もあり困難であった。また東学舎は平成14年度に全面改築を実施しており、既存校舎の活用が求められていた。このため離れた二校舎を活用した整備を行っている。
- 東学舎では図書館や家庭科室等の学習環境を高機能化し、交流授業やイベントに活用できるように計画している。6年生を1階に配置し、6年生受け入れのために階段勾配や手洗い場を改修している。
- 西学舎では地域住民を交えたワークショップの結果として中庭を中心とした開放的な校舎配置を計画に反映している。地域交流ゾーンを1階にまとめて配置している。

1. 教育委活動の一貫性確保への対応 (小中一貫した教育課程に対応した施設環境など)

メディアラボ

図書館を増床・改修して、言語活動・コミュニケーション能力育成の拠点となる「メディアラボ」を整備(東学舎)。



くらしラボ

調理スペースと多目的利用が可能な被服スペースを合わせて、食育の拠点でありランチミーティングにも利用できる「くらしラボ」を新設(東学舎)。



自学自習のスペース

両学舎に、児童生徒が待ち時間などを利用して自発的な学習に取り組めるように複数の自習スペースがある。東学舎の玄関奥のホールにはオープンな自習スペースが設けられており、異学年との交流もみられる。3階の自習室には個別ブースを設け、児童生徒が自分の学習スタイルに合わせて活用している。また、西学舎の学習室は、東学舎から6年生が移動してきた際の居場所にもなっている。



自習スペース(東学舎)



学習室(西学舎)

2. 既存学校施設の有効活用

小中一貫となったことで、東学舎は小学6年生も使用することとなったため、校内の階段・段差の改善や手洗い場の増設を行っている。



3. 地域と共にある学校施設の整備

ランチルーム

校舎1階の地域交流室は外部から直接入室が可能であり、また隣接するランチルームとの間は可動間仕切りで一体活用が可能(西学舎)。



校長の視点から

東山泉小中学校 校長 村岡 徹

施設分離型として、6年生から通う東学舎は既存の中学校校舎を活用しつつ、探究、活用型授業に対応できるメディアセンター機能を持つ教室や、教育目標に謳う向学精神を反映した学びのスペース等を整備、5年生までが学ぶ西学舎は地域、PTA、学校等の代表による新校舎ワークショップの意見を生かし「和(わ・なごみ)」のコンセプトのもと、格子を基調とした外観、木材を多用した内装に“なごみ”のスペースとして中庭があります。

学んだことを“知る”だけでなく“できる”学力を備えた子供を育むための教育環境が整いました。子供たちもこの素晴らしい環境を大切に日々様々な学びに取り組んでいます。教職員一同、意欲をもって学び、自らの将来を拓く子供の育みに励んでまいります。

11. 府南学園



広島県 府中市立国府小学校・栗生小学校・旭小学校・南小学校・第一中学校



第一中学校外観

背景

府中市では、平成15年度に市内全域で小中一貫教育を導入することを決定。試行的な期間を経て、全国に先駆けて平成20年度から市内全小・中学校において小中一貫教育を本格実施した。府南学園は府中市の南に位置し、第一中学校と、国府・栗生・旭・南小学校の5校により学園を形成している。

	学 年								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
学年段階の区切り	小学校						中学校		
授業方法	学級担任制						教科担任制		
運営方式	特別教室型						教科教室型		
授業時間	45分						50分		
校長	各小学校長1人						中学校長1人		
副校長・教頭	各小学校教頭1人						中学校教頭1人		
部活動	なし						部活動		
PTA	小学校PTA						中学校PTA		

学校概要

学校規模	[国府小] 普通:12学級(322人) 特別支援:3学級(7人)
	[栗生小] 普通:6学級(138人) 特別支援:2学級(4人)
	[旭小] 普通:12学級(266人) 特別支援:2学級(8人)
	[南小] 普通:6学級(155人) 特別支援:3学級(5人)
	[第一中] 普通:12学級(421人) 特別支援:3学級(11人)
学年段階の区切り	6-3
開校年	平成20年(2008年)
用途地域	第一種住居地域

教育上の特色

府中市における小中一貫教育は統一して6-3制を採用し、小学校と中学校が協力して、教科学習、生徒指導、学校行事等について9年間での達成目標を立てて取り組んでいる。

小中学校教員が相互に乗り入れ授業を行ったり、合同の研修会の定期的な開催や、全小学6年生が中学校の授業に参加するオープンスクールを実施する等、一貫教育の充実を図っている。

各校の児童・生徒の代表者が参加する小中合同リーダー研修会を年1回開催している。



体育の乗り入れ授業の様子(南小学校)



小中合同リーダー研修会

学校運営(マネジメント体制)

府南学園としては、第一中学校長を学園長と位置付け、小学校の校長とで行う学園経営会議において、学園運営を行っている。

また、乗り入れ授業を行う教諭に対しては兼務発令がされている。中学校に配置されているスクールカウンセラーが学園内の小学校と連携をとり、児童や保護者とカウンセリングを行うなどの支援を行っている。毎月1回、各校の生徒指導主事が集まり、生徒指導上の課題と改善策について協議することで連携を図っている。また、学校事務は週1回第一中学校に集まり共同実施している。



共同事務室入口(第一中学校)

計画・設計のポイント

- 1.教育委活動の一貫性確保への対応
- 2.学校運営の一貫性確保への対応

整備内容

第一中学校	国府・栗生・旭・南小学校
<ul style="list-style-type: none"> ・大規模改修(平成18年) ・教科教室型に移行する改修 ・学園全体で利用する多目的スペースや研修室等を整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・各小学校の多目的室を小中一貫教育のためのスペースとして利用

施設上の特色



校舎の位置関係

- ・立地環境に即した小・中学校の円滑な接続、小学校同士の連携等を実施しており、小中合同での研修などが盛んに行われている。各校で交流活動のために多目的教室などを活用している。
- ・第一中学校においては、平成18年の大規模改修に併せて教科教室型に移行する改修を実施している。
- ・第一中学校には、府南学園の全教員が一堂に会することのできる多目的スペースを校舎中央1階部分に整備している。また、学園内の学校事務を共同で実施するための事務室を整備している。

1.教育委活動の一貫性確保への対応(学年段階の区切りに対応した施設機能など)

教科教室

府中市における小中一貫教育は6-3制を採用しており、中学校は、生徒自らが主体的に学ぶことを重視し、校舎内の各教科教室へ移動して学ぶ教科教室型としている。

第一中学校では、各フロアで同じ教科教室が並ぶようゾーニング上の工夫を行っている。



教科教室



ホームベース

小中合同の取組を紹介する掲示コーナー

各小学校では、小中合同で行う「あいさつ運動」など地域活動の様子や学園で統一した取組等を廊下に掲示して小中一貫教育についての理解や意識を高めるような工夫を行っている。



掲示コーナー



あいさつ運動

2.学校運営の一貫性確保への対応

多目的スペース(コミュニティスクエア)



第一中学校には教室3室分の多目的スペース(コミュニティスクエア)が整備され、学園すべての教員が集まり合同会議を行うことができる。

研修室



授業改善のための研修会などを小中合同で行う際に利用する研修室(第一中学校)。

事務室



毎週木曜日に学園内の学校事務職員が集う共同事務室(第一中学校)。

校長の視点から

府南学園長(第一中学校 校長) 小寺 和宏

府南学園は、中学校1校と小学校4校からなる施設分離型小中一貫教育を推進しています。9月の児童会・生徒会のリーダー研修会をはじめ、10月の一中オープンスクール、また、府南学園合同研修会(教職員)では、本校の集いのシンボリックスペースであるコミュニティスクエア(3教室分の広さを持つ多目的スペース)を活用しています。コミュニティスクエアは、校舎1階のほぼ中央部にあり、窓が大きく明るい上、移動しやすい位置にあります。